

令和6年大分市消費者物価指数の動向

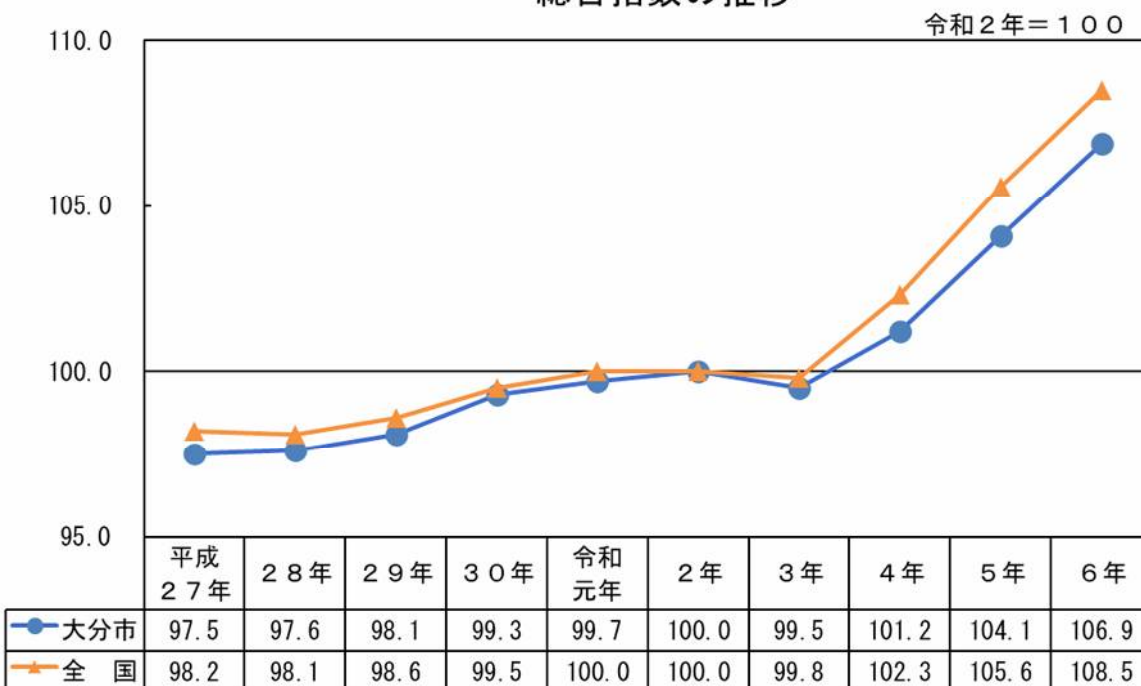
1 概 況

令和6年平均大分市消費者物価指数の総合指数は、令和2年を100として106.9となり、前年に比べ2.7%の上昇となった。

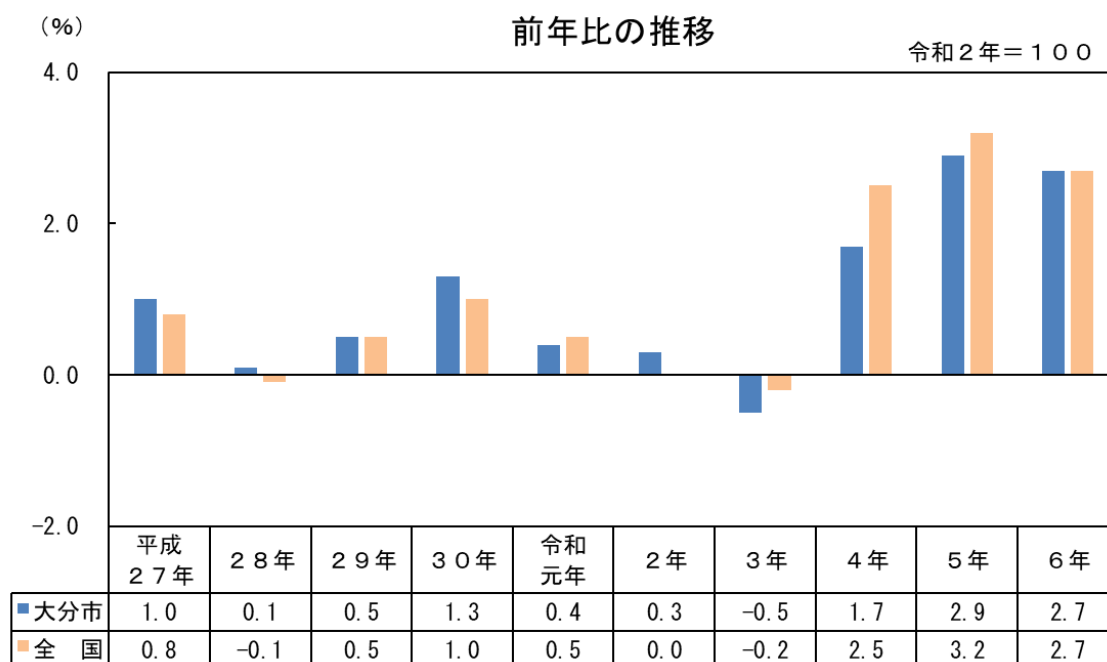
生鮮食品を除く総合指数は106.4となり、前年に比べ2.4%の上昇となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は102.2となり、前年に比べ1.5%の上昇となった。

総合指数の推移



前年比の推移



【近年の大分市消費者物価指数の総合指数の動き】

近年の総合指数の動きを前年比でみると、令和３年のみ前年比 0.5%の下落となるも、ここ 10 年にかけて概ね上昇傾向にある。

【各年の大分市消費者物価指数の動き】

平成 27 年	穀類、家賃、電気代、ガス代、他の光熱、家内装備品、履物類、自動車等関係費などが下落したものの、生鮮食品全体が大幅な上昇となり、加えて寝具類、家事雑貨、衣料、他の被服類、授業料等なども上昇したことなどにより、総合指数は 1.0%の上昇となった。
平成 28 年	原油や液化天然ガスの輸入価格の下落などにより、光熱・水道及びガソリンを含む交通・通信が下落したものの、食料の野菜・海藻や菓子類が上昇したことなどにより総合指数は 0.1%の上昇となった。
平成 29 年	家具・家事用品及び被服及び履物等が下落したものの、食料の菓子類が上昇した。また、原油価格の上昇などにより、光熱・水道の電気代が上昇した。その結果、総合指数は 0.5%の上昇となった。
平成 30 年	住居及び教育は前年と同じ水準となったが、その他の費目についてはすべて上昇した。その結果、総合指数は 1.3%の上昇となった。
令和元年	交通・通信、教育及び諸雑費が下落したものの、前年と同じ水準となった住居を除いたその他の食料、光熱・水道などの費目についてはすべて上昇した。その結果、総合指数は 0.4%の上昇となった。
令和 2 年	光熱・水道、交通・通信及び教育、教養娯楽、諸雑費が下落したものの、その他の費目についてはすべて上昇した。その結果、総合指数は 0.3%の上昇となった。
令和 3 年	家具・家事用品、食料が上昇したものの、交通・通信、教育、保健医療、住居の費目で下落した。その結果、総合指数は 0.5%の下落となった。
令和 4 年	通信の大幅な下落などにより交通・通信が 1.9%、家賃の下落などにより住居が 0.2%それぞれ下落した。しかしながら、肉類や調理食品などの高騰により食料が 3.9%、電気代などの高騰により光熱・水道が 8.9%、家庭用耐久財などの高騰により家具・家事用品が 5.8%など多くの項目で上昇し、結果として総合指数は 1.7%の上昇となった。
令和 5 年	電気代の大幅な下落などにより光熱・水道が 9.1%下落した。しかしながら、調理食品、菓子類などの高騰により食料が 7.8%、家事用消耗品などの高騰により家具・家事用品が 9.0%、通信などの高騰により交通・通信が 2.3%など多くの項目で上昇し、結果として総合指数は 2.9%の上昇となった。
令和 6 年	住居は前年と同じ水準になったが、その他の費目についてはすべて上昇した。野菜・海藻などの高騰により食料が 4.7%、教養娯楽サービスなどの高騰により教養娯楽が 4.4%、電気代などの高騰により光熱・水道が 6.0%など多くの項目で上昇し、結果として総合指数は 2.7%の上昇となった。